

概 況

1 畜種別取扱高

平成7年中の東京都食肉市場における畜産物の総取扱高は、頭数48万4千余頭、重量8万9千余トン、金額931億1千余万円となっており、前年と比べ、頭数で3.4%、重量で1.2%、金額で0.1%それぞれ減となった。

畜種別にみると、牛の取扱高は、頭数13万9千余頭、重量5万9千余トン、金額796億7千余万円で、前年比は頭数で3.8%、重量で0.3%それぞれ増加したものの、金額では0.5%減であった。

豚の取扱高は、頭数34万4千余頭、重量3万3百余トン、金額134億3千余万円となっており、前年比は頭数で5.9%、重量で3.8%それぞれ減となったものの、金額では2.4%増であった。

(※参照 表1)

2 産地別取扱高

牛では、頭数、重量は、千葉県が2万4千余頭、9千2百余トンを出荷し、17年連続の第1位であったが、頭数は前年比で3.1%下回り、重量は0.9%微増であった。また、千葉県の東京都食肉市場全体に占める割合(以下、この項において「構成割合」という。)は、頭数で17.4%、重量で15.6%に及んでいる。第2位栃木県、第3位宮城県は前年同様の順位で、ともに前年実績を上回っている。金額は、栃木県が106億5千余万円で宮城県と入れ替って第1位となり、構成割合は13.6%となっている。以上の三県に岩手県、茨城県を加えた「五県」の構成割合は、頭数で61.2%、重量で57.2%、金額で57.7%と全体の半数を超えている。この他では、北海道が前年と比べ、頭数50.8%、重量49.5%、金額49.3%と2年連続の大幅な伸びであった。輸入部分肉は、前年実績の重量で71.6%、金額で74.4%にとどまりともに減少した。また、第1位米国、第2位オーストラリアの2カ国の輸入重量は、全体の99.7%を占めている。

豚では、千葉県が頭数、重量、金額とも前年実績を25%超え、第1位となった。前年トップの岩手県は、それぞれ前年実績を10%以上減らし、第2位となった。第3位の茨城県を加えた「三県」の構成割合は、頭数65.7%、重量57.3%、金額55.0%と全体の半数を超えている。豚の輸入部分肉は取扱重量、金額とも僅かだが、前年比では引き続き増加している。

(※参照 表1～2)

3 年間市況

牛の全国取引頭数(成牛)は、149万3千余頭で対前年比1.8%減となっており、このうち東京都食肉市場の取引頭数は、13万9千余頭で全国取引頭数の9.4%を占めている。

東京都食肉市場における年間平均価格は、1kg当たり1,324円で、前年に比べ0.7%・9円安となっている。これを月別にみると、1月は1,367円と前年同月より54円高く始まり、2月以降4月までは、1,200円台後半とほぼ前年同月並で推移したが、前年と同様、5月に年間の最安値1,190円を付けた。その後、10月までは上げ基調に転じたものの前年同月比では下回り、1,200円台後半から1,300円すれすれで推移した。年末需要に支えられる11月以降は前年同月比を上回り、12月は24円高の1,523円であった。年末を除くと平均価格は、ほぼ1,200円台後半で推移しており、前年と比べやや弱含みであった。

豚の全国取引頭数は、前年比5.6%減の1,760万4千余頭となっており、このうち、東京都食肉市場の取引頭数は、34万4千余頭で全国取引頭数の2.0%を占めている。

東京都食肉市場における年間平均価格は、1kg当たり438円で前年に比べ6.8%・28円高くなっている。これを月別にみると、1月は372円と前年同月より20円高く始まり、引き続き2月以降も弱含みであった前年と比べ、400～450円台と概ね堅調であった。需要期の6月以降8月までは450円を超え、6月に518円と年間の最高値を付けるなど引き続き前年同月を上回って推移した。10月以降は値を落としたもののほぼ400円台を維持し、この間においても前年同月を上回る値動きであった。年初を除くと平均価格は、ほぼ400円台で推移しており、前年と比べ堅調に推移した。